

安心安全

〈中島 数宜 議員〉
防災行政無線のデジタル化。町民の反応は

〈町長〉
一部地域で聞こえにくくなった等の意見を聞く。スピーカー方向等の調整を行う。

〔Q1〕
屋外設置スピーカー設置計画時と、完成後の音声伝達範囲の違いは。

〔A1〕
計画時の音声伝達範囲に近い状況だが、地形や、建物などの影響や、スピーカーの角度、方向により、音声伝達範囲が確保されていない場所が確認されている。

〔Q2〕
戸別受信機の電波の届かない地域はどこか。

〔A2〕
初神、新宮、平谷の一部や鉄筋コンクリート造りなどの建物で電波が受信できない状況が確認されている。

〔Q3〕
その対策は。



▶ 屋外設置スピーカー

〔A3〕
高性能スピーカーに変更する等の対策を進める。また、戸別受信機で受信できない地域は、一定の条件ではあるが、外部アンテナの無償化を検討している。

〔Q4〕
イエローゾーン等で行政無線が利用できない場所があつてはならない。あれば最優先で対策を行うべきである。

〔A4〕
携帯電話、スマートフォンで見える登録制メールや、防災アプリ等、複数の情報伝達手段を整備しているのので、町内放送以外の利用もお願いしたい。

その他の町行政

〈荒瀧 穂積 議員〉
我々には無限責任。遺族に反省をどう伝えたか

〈町長〉〈総務部長〉
命を守り切れなかった反省に立ち、許される限り葬儀に参列しお悔やみを伝えた。

〔Q1〕
「町民の命と暮らしを守る」ことは、我々の無限責任である。当日その時、町内では何が起こっているかわからず防災計画もマニュアルも機能しなかったと思う。今まで、何が原因で12名亡くなったか質問したが言い訳のみである。

〔A1〕

町長は、「反省している」とのこと。どのようにその気持ちを遺族に伝えたか。
尊い12名の命を土砂災害から守り切れなかった反省に立ち、許される限り葬儀に参列しお悔やみを伝えた。一昨年の犠牲者追悼式でも防災・減災対策を不断に見直し、町民と共に安全で安心なまちづくりに尽力すると伝えた。



▶ 平成30年7月豪雨災害追悼献花(令和2年)

遺族からは、それぞれ状況や立場、思いは違い悲しみや寂しさは未だ心の中から消えないこと、家庭内での防災への取組みが十分でなかったと悔やまれていた。

〈水原 耕一 議員〉
子どもたちが遊ぶ遊具を無くさない取り組みは

〈町長〉
法令点検や定期点検を行い安全管理に努めている。



水原 耕一 議員

〔Q1〕
ここ5年間で、遊具がなくなった公園は、何か所あるか。

〔A1〕
熊野団地の「坊主山緑地」と町民グラウンドに隣接する、川角地区の「冒険広場」の2か所。

〔Q2〕
遊具を無くさないための取り組みはしているか。

〔A2〕
定期点検を行い撤去する状態に至る前に修繕をしている。

〔Q3〕
町内の小さな公園をみると、古い遊具が一つしかない所がある。これでは遊ぼうと思う気持ちになれない。変えていく必要があるのではないか。

〔A3〕
子育て支援策にもつながる。補修や撤去の際は遊具の変更について考える。

〔Q4〕
コロナ禍の中、遊具がなくなるとみらい交流館等の公園に集中してしまい、密の状態の中遊ぶ事になる。「冒険広場」等に、遊具再設置はできないか。

〔A4〕
住民の方のニーズを、今一度勘案しながら検討していく。



▶ 遊具のなくなった冒険広場

〈荒瀧 穂積 議員〉
藤本元副議長が行政犯。町の被害は

〈町長〉
当該業者(株)ジョイとは取引がない。

〔Q1〕
藤本元副議長は、江田島市ごみ袋入札で平成30年本町副議長現職時と令和元年に談合した。令和2年談合罪の行政犯で50万円の罰金を広島簡裁に納付した。

〔A1〕

当該業者は、(株)ジョイと思われる。本町と取引はない。

〔Q2〕

平成21年藤本氏も委員であった本町建設産業委員会は、仙台のごみ袋製造会社を行政視察した。ごみの有料化を考えていたのか。

〔A2〕

考えていない。

〔Q3〕
令和元年呉市議選で町長は藤本氏を応援したか。

〔A3〕
応援には出向いた。呉市と広域連携で良好な関係を築きたいとの考えで判断した。

